

議員全員協議会

日 時	令和 7 年 6 月 25 日（水）開会中	8時54分 開会 10時19分 閉会
場 所	相良庁舎 4 階 大会議室	
出席議員	議長 16 番 村田博英 副議長 15 番 原口康之	
	1 番 石山和生 2 番 谷口恵世 3 番 絹村智昭	
	4 番 名波和昌 5 番 加藤 彰 6 番 木村正利	
	7 番 松下定弘 9 番 濱崎一輝 10 番 植田博巳	
	12 番 太田佳晴 13 番 中野康子 14 番 大石和央	
欠席議員	8 番 種茂和男	
事 務 局	局長 前田明人 次長 浅井大典 総括主幹 原口 亨 書記 増田 奈菜子	
説 明 員	市長、副市長、教育長、総務部長、企画政策部長、政策監、 産業経済部長、市民生活部長、企画政策課長、税務課長、 お茶特産課長、特産振興係長	
傍 聴		

署名 _____ 議長

開会の宣告

○議長（村田博英君）

ただいまから全員協議会を始めます。

なお、8番、種茂和男君から、牧之原市議会会議規則第2条第1項の規定により、欠席する旨の届出がありました。ご承知おきください。

そしてけがの、あれから完治、まだしていませんね。それでは、ご挨拶をお願いします。

○副市長（大石勝彦君）

すみません、鎖骨を骨折いたしました、思いのほか長く入院することになってしまいました。おかげでといいますか、本会議を欠席するということになってしまいましたけれども、今週から復帰をすることになりました。

まだ完治はしていませんけれども、どうぞよろしく願います。

2 市長報告

○議長（村田博英君）

それでは、市長報告をお願いいたします。

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

皆さんおはようございます。

私のほうからは、本日5件ほど報告をさせていただきます。

まず1点目でございますが、令和7年度市民意識調査についてということであります。市の取組に対します市民の評価や意識を把握し、第3次総合計画の進捗管理及び推進の資料として活用するために実施をしております。

本年度は、項目の削減などで回答率が50.2%と、3.4%上昇いたしました。

調査概要でございますが、そこに書いてあるとおりでございますので、そちらをご覧くださいというふうに思います。

2番の個別の調査結果でございますが、一部抜粋をさせていただいておりますので、そこを少しご説明いたします。市の取組への満足度も上昇したものであります。スポーツ環境の充実、それから郷土の歴史や芸術・文化に触れる機会、図書館の機能充実が上位3項目で挙げられました。これにつきましては、多目的体育館の整備や相良総合グラウンドの芝生化、あるいは大河ドラマべらぼう活用事業、榛原図書館「いろ葉」の整備によるものというふうに思われます。

一方で、荒廃農地の活用、企業誘致、公共交通の充実が満足度の下位3項目となっておりますが、これにつきましては、オーガニックまきのはら推進事業、朝生原などの農業基盤整備、茶業振興協議会を通じたイベント参加の支援でありますとか、スズキ株式会社相良工場の拡張のほか、5年間で7社が進出をしている状況、あるいは2社が稼働予定の企業立地をしていること、あるいは3年間で373社の応募があり、現在11社が活動しており

ますスタートアップの呼び込み、あるいはデマンドタクシーやアローラインの運行などの取組を進めておりますが、市民に十分認知されていないことが課題であるというふうに思っているところであります。

(2) といたしまして、「浜岡原子力発電所の今後についてどう思うか」であります。こちらについては、「浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい」は3.5ポイント減少しまして25.1%となり、「浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい」が5ポイント上昇増加しまして44.4%、「わからない」と回答する割合が1.7ポイント減少いたしました。

サイドボックスに行政計画等のフォルダーに報告書を保存してありますので、そのほか全体については、詳細についてはそちらをご覧くださいというふうに思います。

そして次ですが、リニア中央新幹線についてであります。

利水関係協議会の開催の結果についてであります。令和7年5月27日に藤枝総合庁舎におきまして、大井川利水関係協議会が開催されました。山梨県内の県境付近の掘削工事等に伴う健全な水循環の回復措置としての田代ダム取水抑制案の実施と、先進坑を県境付近まで進めた後に行う静岡県内の高速長尺先進ボーリングの実施について協議し、了承されました。

会議の中で、私からは、今後の進め方に関わる以下4点について、意見を述べさせていただきました。今後のスケジュールを静岡県、静岡市、利水協、JR東海などの関係者が共有する必要があること。それから、高速長尺先進ボーリングの結果を基に、水収支解析が想定どおりであるかどうかを確認の上、全ての対話項目が完了した時点において、関係者が一堂に会した説明会を実施すること。国に対しまして、想定外のことが起きたときの損失補償に係るJR東海への指導と積極的な関与などを引き続き求めること。リニア開通後の静岡県への経済効果について、JR東海から提案してほしいということの4点を意見を述べさせていただきました。

二つ目といたしまして、県専門部会における水資源の対話終了についてであります。

令和7年6月2日に県庁において、県の地質構造・水資源専門部会が開催されました。水資源関連の6項目のうち、残っていたトンネル湧水の県外流出対策であります田代ダム取水抑制案のリスク管理とモニタリング計画の観測地点の代表制などの2項目につきまして、JR東海の方策が了承されまして、県専門部会におけるトンネル湧水の全量戻しをめぐる科学的、技術的な議論は終了となりました。

続きまして、料金後納郵便料の支払い手続遅延に係る対応についてであります。

令和7年度固定資産税の納税通知書の発送につきまして、日本郵便株式会社に支払う郵便料の支払いが期限を超過したことで、延滞利息の支払いが必要となりましたので、報告をいたします。

詳細につきましては資料1によりまして、担当課から説明をいたします。

○議長（村田博英君）

税務課長。

○税務課長（大塚康裕君）

料金後納郵便料の支払い手続遅延に係る対応につきまして、税務課から報告をいたしますので、資料1をご覧ください。

本件の概要から順に進めさせていただきます。令和7年度固定資産税納税通知書の発送に係る郵便料金につきましては、料金後納での支払いとなっておりましたが、令和7年5月30日までに日本郵便株式会社へ支払うべきところ、支払い手続を行っていなかったことが判明したものでございます。

請求書の支払い期限を超過しているため、日本郵便株式会社が定める内国郵便約款に基づき、支払期限の翌日から支払日の前日までの延滞利息年14.5%の支払いが必要となったものでございます。

経過といたしましては、令和7年4月23日に2万736通の固定資産税納税通知書を郵便局へ持ち込み、発送を依頼いたしました。

5月12日に日本郵便株式会社から4月分の請求書を受領しましたが、4月に発送した国民健康保険税納税通知書との合計の請求書となっていたため、国保税担当者が固定資産税と国保税との支払い分割表を作成し、固定資産税担当者へその旨を伝達しました。

5月16日に、国保税担当者は国保税分の支払伝票を起票しましたが、固定資産税担当者は支払事務を失念し、未払いのままとなっております。

6月3日になり、島田郵便局からの電話連絡により、固定資産税分の郵便料の支払い手続が未了となっていること及び延滞利息が発生することが判明いたしました。

未納の連絡を受けまして、6月6日に納税通知書の発送に係る郵便料計178万4,742円の支払いを完了いたしました。

延滞利息額ですが、5月31日から6月5日までの6日間の延滞利息相当額につきましては、7月上旬に金額が確定いたしますが、現段階での見込みでは、約5,000円と見込んでおります。

本事案の発生原因としましては、担当者の支払事務手続の失念及び進捗管理の不備によるものでございます。

今後の対応につきましては、延滞利息は賠償金に該当いたしますので、地方自治法第96条第13項の規定により、原則として議会の議決が必要となりますが、本市におきましては、地方自治法第180条第1項の規定に基づく市長の専決事項の指定により、1件100万円以下における和解及び法律上市の義務に属する損害賠償の額の決定に関する事項は、議会の指定により、市長の専決事項とされておりますので、延滞利息額の確定をもって専決処分し、予算流用後、速やかに支払いを行いたいと考えております。

議会への報告につきましては、令和7年9月定例会を予定しております。

最後に、再発防止策でございますが、本件は1枚の請求書を按分し、複数の支出伝票により支払う過程で発生したものであります。このため、請求書を按分して支払い分割表を作成した担当者は、該当する事業の係長及び担当者へ資料を添付してメールし、処理を促すものとし、係長は担当者が起票したことを確認することといたします。

また課長は、支払分割表が添付されている伝票を決裁するときは、関係する全ての伝票の到達を確認し、それらの合計額と請求額が一致していることを確認した後に決裁を承認することとし、再発を防止したいと考えております。

報告は以上です。

○議長（村田博英君）

それでは、続けてお願いします。

○市長（杉本基久雄君）

それでは続けまして、道の駅そらっと牧之原の開駅についてであります。

令和7年7月18日、金曜日に本市初となります道の駅そらっと牧之原がいよいよ開駅を迎えます。本施設は、伊豆村の駅や道の駅なんぶなどの地域密着型の道の駅において、多くの実績を有しますTTCグループを指定管理者としており、施設の設計段階から同社の考えを反映することで、民間のノウハウを活かした、目的地として多くの方に訪れていただける魅力ある施設として整備を進めております。

商品につきましては、地場産品の直売はもちろん、お茶、レモン、シラスなどを活用した飲食物など、牧之原市のオリジナル商品やメニューの商品開発を行っております。

商品の供給元となる市内の生産者や物販事業者につきましては、現在100者を超える方々と契約が締結されております。

また、全国の主要都市からのバスツアーや、空港をはじめとした市内観光スポットなどをめぐるツアー、富士山静岡空港との商品連携、空港利用者におけるインセンティブの付与、外国人観光客に対応するための多言語対応の実施など、集客に向けまして、多岐にわたる検討を進めているところであります。

さらには、当施設の整備や運営に伴いまして、約60人の従業員の採用を予定しておりまして、サービス産業の働き場の創出や、地域での就業環境の確保という点においても大きな効果を発揮する見込みであります。

7月16日には、市議会議員、坂部財産区などの坂部区の皆さん、その他関係する事業者などを対象とした内覧会を開催いたしますので、市議会の皆さんもぜひご来場をいただきたいと思っております。

また、道の駅開駅前日の7月17日の午後からは、プレオープンとして一般開放を開始する予定であります。

農産物や加工品の開発、販売を中心に、農業振興の情報発信、地域住民の交流、体験の場などとして活用するとともに、空港との距離や道路アクセス利便性を活かした交流人口の呼び込みを通じて、富士山型ネットワークによるまちづくりをさらに充実、発展させる拠点としてまいります。

続きまして、令和7年度の夏季における観光関連事業についてであります。

今年度もさがらサンビーチ、そして静波海水浴場の二つの海水浴場を7月18日、金曜日から8月31日、日曜日までの期間で開設いたします。

開設初日の7月18日は、午後1時からさがらサンビーチで、午後3時から静波海水浴場で開場式を執り行い、海水浴場の安全を祈願するとともに、さがらサンビーチでは、地元の子供たちによる初泳ぎを実施する予定ですので、議員の皆さんもぜひご来場ください。

来場される皆さんが快適に海水浴を楽しんでいただけるよう、安心安全な運営を徹底してまいります。

また、今年度は、物価高騰対策として、7月18日から令和8年1月1日までを期間として、RIDE ON MAKINOHARA誘客キャンペーンを実施いたします。市内の宿泊施設利用者4,000人を対象に、市内で飲食や観光、体験、土産などに使用できる3,000円分の商品券を配布いたします。また、昨年度から実施している1人当たり1,000円のスポーツ合宿支援事業等の併用も可能であります。

海水浴やスポーツ合宿で訪れる多くの方に市内での飲食や買物などを楽しんでいただき、市内消費の促進につなげてまいります。

なお、花火大会につきましては、相良地区ではさがらサンビーチを会場に、1,173発の花火を打ち上げる「RIDE ON MAKINOHARA いい波に乗ろう！さがら海上花火大会2025」を9月6日に開催し、榛原地区は10月に開催予定の全日本サーフィン選手権大会に合わせまして、来場者に対するWelcome花火を計画しております。

交流市町との連携につきましては、7月7日に、昨年度、観光交流に関する協定を締結いたしました甲州市の訪問と、YBS山梨放送のラジオ出演を行いまして、海水浴場や誘客キャンペーンの紹介などを通じて市の魅力をPRしてまいります。

また、甲州市、山梨市、中央市、甲斐市、昭和町にも、牧之原活性化センターと観光課職員が訪問いたしまして、PRを行ってまいります。

7月19日には、甲州市の子供たちが当市を訪れまして、サーフィン体験やお茶摘み体験などを行う予定であり、今後はお互いの特産品販売を通じた交流も行なってまいります。

私からの報告は以上であります。

○議長（村田博英君）

市長報告は終わりました。皆様からこの報告に対しまして質問がございましたら、お願いします。

中野議員。

○13番（中野康子君）

令和7年度の市民意識調査について、お伺いします。

回収率が年々減っているという関係で、質問を大分減らして今年度は行ったというふうに報告を受けておりますが、今回の回収率も増えてはいないんですけれども、今までやってきた市民が考える方向性が、ある程度捉えられてきている中で、その部分は分かっていると思いますけれども、今回の回収率、それから内容等に市民の考えが変わってきている部分がございます。そういう部分について、今後その部分を相対的に考えて、どのような方向性で持っていきたいのかというのが分かっていたら、教えていただきたいと思っております。

○議長（村田博英君）

企画政策部長。

○企画政策部長（大石佳伸君）

まず概要について、もう一度確認ということでお願いしたいと思います。

私のほうからは、回収率の関係ですけれども、期間を少し長くしたということと、それと設問、今、議員がおっしゃられたとおり、設問を少しコンパクトにしたというところで、回収率については、前年から少し上がっている。50.2%、3.4ポイントぐらい上がっているというような状況でございます。

ここ数年といいますか、50%を切るような状況だったんですけれども、そういったところではその効果があったのかなと思っております。

内容等については、少し課長のほうから説明をさせていただきます。

○議長（村田博英君）

企画政策課長。

○企画政策課長（本間直樹君）

まずこの市民意識調査の結果につきましては、各政策分野全般に、市民がどのようなご意見というか、感覚をお持ちかということを確認するために使わせていただいております。なので、年度ごとのばらつきもありますが、経年の変化を見る中で、外的な要因もありますけれども、市の取組によってどのような効果があったかとか、どのようなところに皆さんのご意見が反映されているかというふうなことで、確認させていただいております。

また、今年度は重要度を減らして満足度のほうを中心に見ているんですけれども、先ほど市長が説明したとおり、その年の取組と満足の上昇が連動しているところなどから、政策の評価というふうな形で取らせていただいて、今後の取組等に反映させていただくというふうな形で考えております。

以上です。

○議長（村田博英君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

説明いただきました。分かりました。回収率のほうをちょっと間違えました。申し訳ございません。

それこそ市民の満足度を大事にということ、それはすごく大事なことだと思います。そういうのを見ていく中で、今までたくさんの質問をしてきた中で、大概の方向性というのは見えてきていると思うんですけれども、その年によって設問の内容というのを少しずつ変えて、今後もやっていくという考えでよろしいでしょうか。

○議長（村田博英君）

企画政策課長。

○企画政策課長（本間直樹君）

設問につきましては、経年変化を追っていきたいので、できる限り変えずに同じ項目でやりたいという考えはあるんですが、やはり総合計画の見直しとか、大きな政策の方向転換があったときには、しっかり拾えるように見直させていただきます。

また、今回のように少し回答者の傾向が変わってきたかということがあれば、やはり回答しやすいように削減することなどもあると思うので、経年変化を追うことを原則としつつも、回答しやすい調査となるように、またちゃんと評価の結果として拾えるように工夫をしていきたいという考えでございます。

以上です。

○議長（村田博英君）

そのほかございますか。

谷口議員。

○2番（谷口恵世君）

道の駅そらっと牧之原の開駅について伺います。

坂部区のほうでも、関係者の方々と地域の方々等で、利用できるスペースがあるかどうかを坂部のほうで少し回ったようなお話も伺っていますけれども、やはり混み合うことが想定される中で、シャトルバスの運行だったり、坂部区内の空いているスペースを利用するというところのお話が今どの程度まで進んでいるかと、あとその辺りの周知とか、TTCさ

ん、指定管理者のほうでいろいろ策を練るかとは思いますが、市としてどの程度まで計画とか準備をされているか、教えていただければと思います。

○議長（村田博英君）

お茶特産課長。

○お茶特産課長（大石寛之君）

谷口議員のご質問の関係で、道の駅の関係ですが、駐車場を大体予想としましては500台くらい必要であろうということで想定しておりまして、現在TTCグループのほうに、前回地区の皆様と懇話会があった際に、地区の皆様に対して、それぞれTTCグループのほうでも、ある程度、地権者の皆様のほうに駐車場の確保ということで動いているということは聞いております。また、その部分で足りない部分につきまして、懇話会のときに、お願いをさせていただいて対応しているという話は聞いております。

また、担当の私たちの部署におきましても、そういった適切な場所があるかどうか、そういった形、また自分たちの職員の中のつながりの中で適切な駐車場があるかということで、対応をさせていただいているところであります。

以上となります。

○議長（村田博英君）

谷口議員。

○2番（谷口恵世君）

特に市のほうでシャトルバスを運行とか、そういうことはまだ検討されていないということですか。

○議長（村田博英君）

お茶特産課長。

○お茶特産課長（大石寛之君）

当日、18日が一番混む時期だと思います。そこにつきましては、榛原庁舎からシャトルバスを当該道の駅のほうまで運行を考えております。

○議長（村田博英君）

谷口議員。

○2番（谷口恵世君）

それはあれですか、事前に市民の方に周知をホームページ等でするといった形でいいんですか。

○議長（村田博英君）

お茶特産課長。

○お茶特産課長（大石寛之君）

そのつもりで十分周りのほうに影響がないような形で対応したいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（村田博英君）

谷口議員。

○2番（谷口恵世君）

空港の駐車場利用とかという、空港との連携みたいなことは、特に市としては今検討事項には入れていないということよろしいですか。それは指定管理者のほうで何か考えて

おられるのか。もし分かれば教えてください。

○議長（村田博英君）

お茶特産係長。

○お茶特産振興長（政野隆輔君）

谷口議員にお答えいたします。

空港の駐車場との利用であったりですとか、空港自体との連携についてでありますけれども、現在、駐車場の利用については特に今のところ計画はございません。静岡空港と指定管理者のほうで今協議を進めておりまして、いろんなイベントであるとか、連携事業の模索するという形で現在協議を進めております。その中で、空港と道の駅をつないだ周遊であるとか、そのほかの市内の公共施設、観光施設等を含めたツアーについても、今企画をしているということで伺っておりますので、空港との連携は重点を置いて計画をさせていただいている状況です。

以上です。

○議長（村田博英君）

そのほか。

木村議員。

○6番（木村正利君）

リニア中央新幹線についてのことで確認させてください。

市長のほうから、県専門部会における水資源の対話終了についてというご報告をいただきました。ずっと県の専門部会が言っていたところはこれで終了。再度確認なんですが、県のほうとしてはこれはもう終了したということで、市町の利水関係とは切り離れた中で、県もある程度最終的には、要はJRとのことの中で進んでいくということで、こういう問題、かつてずっとやってきたものも最終終了で、こういったことというのは県のホームページなり公表されるのかということ、ちょっとお伺いしたいんですが。

○議長（村田博英君）

企画政策課長。

○企画政策課長（本間直樹君）

まず今回、県の専門部会において、一段落したのが水資源についての項目になります。ただ、まだほかにも、生物多様性であるとか、トンネル発生土の議論が残っておりますので、県の専門部会に対する議論はまだまだこれから継続的に行われていきます。

水資源の検討状況等については、新聞報道も含めて公表されておりますので、その状況については、お知らせされているとおりになります。

以上です。

○議長（村田博英君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

今のご報告で理解できましたので、いろんな地域の水の問題というのは市民の方も関心を持っておられるので、このことは周知していただくように、また説明していきたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（村田博英君）

ほかは。

大石議員。

○14番（大石和央君）

2件お聞きしたいと思います。そしてあとそれ以外に1件、お聞きしたいんですけども、まずリニアの中央新幹線についてですけども、専門部会、水資源関連で、先ほど質疑もありましたけれども、終了ということでありましてけれども、本当に終了なのかと。市長の考えはどうなんだろうかなというふうに思うんです。果たしてでも、今まで議論してきたのは、山梨工区という形でやってきて、今度県境を挟んで、そしてさらに西に掘り進めるということになりますと、静岡工区ということになります。そこのところへの、いわゆる対話というものが行われないう話になってしまいますね、この水に関して。それでいいのかどうなのか。この点どのように考えていらっしゃるのかということと、それから、市長は利水協の中でもいろいろ意見を述べられて、この意見というのはいかにどのように反映されていくのかなということと、それから、そもそも一番重要なのは、これからボーリングをやっていきます。やるということは言っているんですけども、実際具体的に、どうなのかということは一切明らかになっていないんですね。それでいいのかということと、それで、市長は全ての対話項目が完了した時点で、水収支解析というのを、関係者に説明する必要があるというふうに言っているんですけども、全ての対話項目じゃなくて、ボーリング結果が出た段階で、これはやっぱりオープンにしていけないとまずいんだと思うんですよね。そういったことをどのように考えていらっしゃるのかということをお聞きしますと。まずね、それ。

もう一点は、市民意識調査の原発のところですか。これはたくさんは言いませんけれども、一般質問でやりましたけれども、やはり安全が確認できれば稼働したほうがよいということ、これは当然増えていくというのはこれまでもそうなので、こんな結果だろうと。安全であれば。でも、最初の頃の安全というのは、絶対安全だったんですね。ですから、安全云々かんぬんよりも、停止したほうがよいというようなことで皆さん考えられていたと思うんです。

でも、時がたつ中で、この安全という認識が違ってきているということと、これってやはり全体的に原発の利用、イエス・ノーの中では、まだノーのほうが多いんですよね。世論として、そうすると、この辺を考えますと、どうも誤ったメッセージが伝わってくるのではないかと。これ見よがしにマスコミは報道するだろうし、稼働したほうがよいというのが増えましたなんていうふうにやるんだけど、これはやっぱり誤ったメッセージになるんじゃないかなというふうに懸念をしているんですけども、その点についてお伺いをいたします。

○議長（村田博英君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

専門部会の水収支解析のいわゆる検討といいますか、が終わったということですが、先ほども私申しましたように、いわゆる想定どおりかどうかというのは、それを立証するための僕は高速長尺先進ボーリングだと思っているんです。全てが分かるわけではないかもしれないけど、ある程度の状況は分かる。なので、私の意見として言わせてもらったのは、

一緒くたに書いちゃったものだから、全部が終わってからと取られたんだけど、僕はやっぱり水の収支解析がボーリングによって、それで想定以内なのか以上なのか、ここはつまびらかに、その時点ですべきだということで意見を述べさせてもらったつもりです。

それからもう一つは、ここで僕が言っているのは、いわゆる県が最終的に占用許可を下ろす段階となったら、それはちゃんと県としても、何がどうなっただからというのをしっかりそこは全体について説明すべきだと。占用許可するか、それから申請者側、あるいはモニタリング会議も含めて、それはやってくださいねということをお話しさせてもらったという認識でありますので、お願いしたいと思います。リニアについてはそういったこと。

それから、あと国に対して想定外の事態が起きたときの補償問題、これについても一昨日の新聞ですか、知事の会見の中でも出ていましたけれども、しっかりと知事も明文化すると。私が言ったことに対して、知事からもそういった形で明文化するというのを知事もおっしゃっていますので、私としてはしっかりそこは担保を取りたいというふうに思っていますし、流域の首長もほぼそういう意向ですので、それはしっかりと対応していきたいというふうに思っております。

それから、浜岡の原子力発電所の関係の、何をもち安全かというのが、ただ安全の意識がどう変わってくるのかあれなんですけど、我々とする、この質問項目は一般質問のときもお答えさせてもらいましたが、その当時から同じ質問内容なので、その当時は逆にとめておいたほうがいいが多かったんですよね。それが時間が経つにつれて、だんだん、だんだんいわゆる安全が確認されれば稼働したほうがよいが膨らんできた、あるいはとめておいたほうがいいというのがつぼんできたというところに関しては、いろいろな市民の皆さんの意識が変わってきているのかなというふうに思いますけど、一つには、やっぱり電気料の高騰というのは、大きくあるのかなというふうに思います。それから、あと、いわゆる再エネといいますか、環境の問題も含めると、やっぱりCO2ゼロの電気がいいだろうという思いもあるでしょうし、あるいは中部電力がこれまでかなりのお金を投資して安全対策を行ってきている。これは、市民の皆さん、特に自治会を中心とした視察等を行っておりますけれども、そういった中で着実に安全対策は進んでいるというのを理解してきたというところもあるんじゃないかなというふうに、私としたりは思っています。

ですので、あまりここを、一般質問のときにもお答えしましたが、質問の中身というか、聞き方をいじってしまうと、これまでの経年変化といいますか、そこが逆に薄れてしまうというふうに思っていますので、一つには安全というのは何だというのは、これはやっぱりしっかりとこれからも追求してつくる必要がありますし、私一般質問のときもお答えしましたがけれども、いわゆる避難計画ですよね、それが着実に進められるようなことが重要だと思っていますので、その課題を一つ一つ解決していかなくてはならない、それが安全につながるというふうに思っていますので、私の考えとしては以上であります。

○議長（村田博英君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

リニアに関しましては、環境保全に必要な対話項目としては、水資源も含めてやっぱり静岡工区の問題ということで、やっぱり専門部会のほうでも議論する必要があるんじゃない

いかと私は考えるんですけれども、その辺のところはどのように考えていらっしゃるのかなというふうに思うんです。

それと今、先進抗がどんどん掘られてきて、県境に近づいているんですけれども、どの時点でボーリング調査を改めてするのもよく分からない中なんですけれども、しかしながら、JR東海としては、順応管理という形で、掘りながら管理していくということがまず優先的に行われるということになるわけなので、その辺の懸念というのが非常にあるわけで、まずはきちんと水が失われないという、その辺のところを一番にして、明らかにしていくということが重要なこと。ダム案もありますけれども、果たしてそれだけで対応できるのかというのが流域市民の非常に懸念事だというふうに思っていますので、その点でもしっかりとやっていただきたいと思います。

○議長（村田博英君）

市長。

○市長（杉本基久雄君）

先ほども申しましたけど、いわゆる高速長尺先進ボーリングの県内に入るとかということの中での水収支解析の専門部会の対話項目については、事前の部分というのは終わったと。ですけど、これからまさに高速長尺先進ボーリングをやっていく段階においては、地下水であるとか表流水であるとか、モニタリングの位置も決めてありますので、そのモニタリングをやりながら、モニタリングの委員会もありますので、そこでチェックをしながら進めていくというふうに私は思っていますし、そういった情報を流域にもしっかりとお伝えいただく中で進めていくということで考えていますので、専門部会での対話が終わったから好き勝手やっていいよと、そういう状況ではないというふうに私も認識しておりますので、特にモニタリングをしっかりとやるのが重要であると思っています。

○議長（村田博英君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

そのほかでもいいですか。

○議長（村田博英君）

ほかにもあるんですか。

○14番（大石和央君）

あります。じゃあ、この場での最後ですけれども。いわゆるモニタリングでしながらということなんですけれども、専門部会のところで、そのフローについて委員から意見が出まして、これを少し書き換えるという形になったわけなんですけれども、それ以降、どのように書き換えられたのかというのがよく分からないというところもあるんですね。こちら辺をきちんとした上で、それで終了したということならまだしも、その辺の議論がなされないままになっちゃっているというのはどうなんでしょう。

○議長（村田博英君）

企画政策課長。

○企画政策課長（本間直樹君）

すみません、少し専門的なのでちゃんとお答えできるか申し訳ないですけど、まず先進抗と合わせて、まだ多分不足している様々な調査を県はしていくということを言っている

と思います。それを基に、県境から300メートルの区間における管理フローもありますので、それに当てはめてまた審査をしていくことになると思いますので、その管理手順も含めて今回、手続の内容はしっかり専門部会で決められておりますので、さらに、先進抗が県境手前60メートルで止まって、そこから県境付近のコアボーリングをやったり、あと、前回の調査のときに、湧水圧が一番出るところで調査できなかったということがあったと思うんですが、そこについても、そのポイントでしっかり湧水圧の調査をします。それで透水係数とかを出して、水収支解析の過程をしっかりと出すということをJRがまずやりません。その内容について、しっかり管理フローで議論していくことになると思いますので、またその報告については、県の専門部会でされていくと思います。

ただ、対話項目としては、そういう手続の流れをまずは完了したということなんですが、そういうチェックを今後していくということは残っていますので、全てが今、無条件でオーケーになっているという状況ではないと思っております。

お答えになりますでしょうか。すみません、以上です。

○議長（村田博英君）

植田議員。

○10番（植田博巳君）

最初にそらっと牧之原のことについて聞きたいんですけど、商品の供給元となる市内の生産者や物販事業者、100者を超える方々と契約をしているということなんですけれども、契約されなかった方というか、そういう方もいらっしゃるんだとは思いますが、どんな条件で契約行為というか、契約された人と、されない人と仕分けがされているのかということと、あと、市内の生産者ってこのうちの何者ぐらいいらっしゃるのか、それを教えてください。

それから、さらに60人の従業員の採用を予定しておりと書いてあるんですけど、もうこれは既に採用は決まっているのか、それともどういった形で採用の公募をされているのか、その辺をお聞きしたいんですけど。

○議長（村田博英君）

お茶特産課長。

○お茶特産課長（大石寛之君）

お答えさせていただきます。現在、契約につきましては、TTCのところでは、条件としましては、継続的に商品の販売ができること、そういった条件がまずありますので、商品自体が途中で途切れてしまうとか、あとは循環的に商品を提供できるというところを基準としまして、まず生産者さん、出荷者さんとの調整させていただいているところであると聞いております。

また、それこそ手数料とか、そういったものもTTCのほうから出されているものから、手数料の関係で合意ができる、できない、そういったところも含めまして、TTC側がちょっと難しいというお話もする場合もあるでしょうし、出店希望者のほうから、ちょっとその条件で折り合いがつかないということで、やめられているような方々もいるような状況でございます。

その中で、販売商品のところにつきましては、農産物につきましては、聞いているところにつきましては、118品現在やるよと。その中で、市内の商品等々を使ったものについ

ては73品を予定していると聞いております。また、物販費につきましては、39品中、市内は18品のものを採用するという事聞いております。

採用の関係でございます。採用の方につきましては、応募者等々あるんですが、採用者につきましては、最新の状況ですと、採用者が現在26名、そのうち市内の方は15名の方を採用しているという形になります。ただ、目標であります60名につきましては、基本的には年中無休で業務をやるということがありますので、そのところの人員確保ということで60名、継続的にまた雇用のほうを進めていきたいということで聞いております。

また、TTCの労働条件もありますので、応募したからといって採用できるというような状況にはなっていないみたい。そちらについても、TTC側、応募者側のそれぞれの思惑等々がございますので、その中で採用のほうが進められているようであるということで聞いております。

以上になります。

○議長（村田博英君）

植田議員。

○10番（植田博巳君）

最初に生産者の関係ですけれども、やはりそういう基準というか、継続性、持続性というか、がないと駄目だということで、応募しても契約されない方も出ているという認識でいいですか。結構ほかの地区から出しても、やっぱり坂部でないと駄目だよという話も聞いたこともあったので、そういうのはないということでいいじゃんね。それは絶対ない。

○議長（村田博英君）

お茶特産課長。

○お茶特産課長（大石寛之君）

坂部限定とかという話は基本的にはありません。農産物の需要と供給のことを考えたときに、より広くのところをから供給をしなければならないという観点の中でさせていただいているような状況になっております。

○議長（村田博英君）

植田議員。

○10番（植田博巳君）

それから、従業員の採用ですけれども、まだ相当、年中無休でやるからあるということなんだけど、どんな形で公募しているんですか。目にすることがないんだけど、この応募状況を。どんな形でやられているのか、教えてください。

○議長（村田博英君）

お茶特産課長。

○お茶特産課長（大石寛之君）

お願いできる施設のところに募集のポスターを貼らせていただきまして、その中で募集をさせていただいているような形になります。たとえでいいますと、地区の拠点施設、また貼っていただける、ご了承いただいたコンビニエンスストアとか、そういったところで掲示をさせていただきまして、募集をかけているような状況でございます。

○議長（村田博英君）

植田議員。

○10番（植田博巳君）

そらっとに関しては、以上です。

あとは料金手続遅延について聞きたいんだけど、そらっとの方がいたら、先に聞いてください。いない。

○議長（村田博英君）

植田議員、いいの。

○10番（植田博巳君）

次が、料金の手続遅延に対する対応について聞きたいんですけども、よろしいですか。料金の支払い遅延ということなんですけれども、固定資産税と国保税との支払いを郵便局から直接合計で請求書が来たんだけど、この合計の額をそのまま郵便局にお支払いして、内訳で中の会計に分けるということはできないんでしょうか。

会計が違うから、とか思いますけど。

○議長（村田博英君）

税務課長。

○税務課長（大塚康裕君）

今回、特別会計と一般会計に分かれていまして、また事業も、固定資産税と国民健康保険税で異なりますので、請求内訳を分ける必要があるということで、一緒にはできないということです。

○議長（村田博英君）

植田議員。

○10番（植田博巳君）

そうすると、郵便局から最初から別々の請求書っていただけないんでしょうか。そうすればこういうこともないのかなと思うんですけど。

○議長（村田博英君）

税務課長。

○税務課長（大塚康裕君）

こちらにつきましては、分けることができずに1本で来るということですので、中で分けて別々にお知らせして合計額をお知らせすると思います。

分けることはできないということですので、1本でどうしても来てしまうということですので。

○議長（村田博英君）

植田議員。

○10番（植田博巳君）

今までも同じような処理をしていたということですよ。同じようなことをしていたんだけど、今回だけは失念したというか、こういうことになったということですか。

○議長（村田博英君）

税務課長。

○税務課長（大塚康裕君）

そのとおり、今回に限りまして失念してしまったということで、こういう結果になったということです。

○議長（村田博英君）

ほかに。

石山議員。

○1番（石山和生君）

市民意識調査について、例年同様、エクセルデータをもらえますかというところです。

○議長（村田博英君）

企画政策課長。

○企画政策課長（本間直樹君）

昨年もお渡しさせていただいていると思いますので、今回も渡させていただきます。

○議長（村田博英君）

そのほか。

大石議員。

○14番（大石和央君）

一点だけなんですけれども、国民健康保険証の件なんですけれども、マイナ保険証保持者はどれくらいいるのかということ。数字は後からでもお聞きしますけど、大ざっぱにどれくらい持っているのかということと、その上で、結局マイナ保険証を持っていらっしゃる方には資格確認書が発行されないということだというふうに思うんですけれども、やはりどうしてもトラブルがあったりしたり、また医院によっては、なかなかマイナ保険証を使えない医院もあるんですね。そういう中でやはり全員に資格確認書が発行できないのかというふうに思うんですが、その点どうなのかということをお聞きをいたします。

○議長（村田博英君）

市民生活部長。

○市民生活部長（前田里芳君）

マイナ保険証の関係の紐づけ人数についてはちょっと今数字を持ち合わせておりませんので、これはちょっと調べさせていただかないと、実際どれくらいの方がいるかというのは少し分からないので、それはすみません、少しお時間をいただきたいと思います。

それからあと、資格確認書の関係も、資格確認書を毎年送る。多分これから、いつもでしたら7月とかぐらいに新しい書のあれがあるものですから、その時期に、またその辺の資格確認書というのは、多くの方については送るということにはなっております。マイナ保険証の登録している、していないのところについては、すみませんちょっと今送る対象になっているかどうなのか自分の記憶がないものですから、それも併せてまたお答えをさせていただきますと思います。

○議長（村田博英君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

確認しますけど、そもそも市としては、マイナ保険証保持者に対しては、資格確認書は発行されないんですね。

○議長（村田博英君）

市民生活部長。

○市民生活部長（前田里芳君）

その件についても確認してお答えさせていただきます。

○議長（村田博英君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

非常に重要なことなので、ぜひ、先ほども言ったので言いませんけれども、マイナ保険証保持者でも、全員、国民健康保険に入っている方、あるいは後期高齢者もそうなんですけれども、これってやっぱりマイナ保険証を持っていない人だけじゃなくて、全員に交付するということが必要だというふうに思うので、ぜひ検討していただきたいと思います。

○議長（村田博英君）

そのほか。

中野議員。

○13番（中野康子君）

それこそ補正予算のときでしたかね、まきペイに関して、議員からたくさんの質問が出ておりました。それで、行政とか商工会が関わっている中で、大変分かりにくいということでありまして、改めて分かりやすくしたものを報告してくださるということでありましたけれども、それがいつになるのか、その辺が全く分からないので、教えていただきたいです。

○議長（村田博英君）

次長。

○事務局次長（浅井大典君）

すみません、この後なんですけれども、全員協議会終了後に、常任委員会合同協議会で追加議案の配付をやらせてもらうんですけれども、それが終わりましたら、今おっしゃったまきペイ関する報告について、説明させていただく時間を設けておりますので、よろしくをお願いします。

○議長（村田博英君）

そのほか。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

1点お願いします。ただいま本会議、会期中ですけれども、先週は一般質問が行われて、その中でちょっと感じたことがあったものですから、確認をお願いします。

今年度予算編成を組むに当たって、今年度ね、非常に厳しい中で、議会としても財政規律に関する関係で附帯決議を出させてもらってあります。そういったことで、今回一般質問の内容を聞いている中で、それぞれの議員の皆さん、うまく市長に対して提案を、特に住民福祉に資することですから、受け入れてもらうように、うまく説明して、市長側でもそれに対する、やはり今後やっていくよという、いい返事をいただいているんですけど、ただ、心配なのが、さっき言ったように、今年度の予算編成を組むときも非常に苦労していると。そういった中で、今後税収が入ってくる見通しがある程度あればいいんですけど、今非常に政府の政治のほうも混乱していて、地方交付税も今後かなり減っていくということも想定していかなければならない中で、非常に心配なんですけれども、その辺ってどのように今考えてるのかなという、それをもし説明できたら、お願いします。

○議長（村田博英君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

今、様々な事業、一番大きいのは学校の事業がありますし、様々な事業がございますので、それに関しては今、国ともいろいろ調整をしています。文科省をはじめ、内閣府、あるいは国土交通省等と、どこまで補助いただけるのかというものも当然ありますし、今後の財政計画見直しについても、8月頃までにはそこのところも出したいというふうに思っています。ですので、そういった精査をする中で、最終的には取捨選択をしなくてはならないというふうに思っています。

コストカットしなければならないものはコストカットしなければならないだろうし、しっかりと財政計画が成り立たなければしょうがないので、そこは今、詰めているという状況でありますので。

○議長（村田博英君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

今、市長が言われたように、学校再編ね。特に学校再編、相当厳しいと思うんです。それと、防災拠点ね、火葬場の関係で、防災拠点の建設、これも出ております。それと火葬場。そういったことで、今後、非常に牧之原市にとって大きなプロジェクトがめじろ押しで、本当に減らすものを、今、市長が言われたように、かなり厳しい決断をしていかないと、本当に立ち行かなくなるといことが考えられるものですから、それはしっかりと厳しいことも、今後やっていってもらいたいなど、そんなふうに思います。

以上です。

○議長（村田博英君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

昨日も御前崎、牧之原の組合の関係で、これから保全センターの設備を改修してやっていったらどうなる、こうなると、勉強会をやっておりますけれども、そういった中で、削減できるところはしっかりと削減できることをやっていく必要があると思うんですね。

ですから、吉牧も含めた形で、減らせるものは減らしていくということが重要だと思いますので、つくるばかりじゃなくて、減らすものもしっかりと取り組むということが重要だと思いますので、そこについてはしっかりと財政計画が成り立つように進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（村田博英君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

今年、市長にとって3期目の市長選がございます。それで、恐らく選挙になるということで、どうしてもいい話をするという状況になるかと思うんですけれども、そこはやっぱり厳しいことも、しっかりとやっていってもらいたいなど、そんなふうに思います。

以上です。答弁はございません。

○議長（村田博英君）

それではいいですね。

[「なし」と言う者あり]

○議長（村田博英君）

市長報告の質疑はこれで終了いたします。ご苦労さまでした。

3 議長・関係議員・委員会報告（1） 会議等の結果

○議長（村田博英君）

それでは続けて行いますので、議長・関係議員・委員会報告に入ります。

今月は非常に多くて、議長の報告を簡単にさせていただきますので、私のほうから説明いたします。

5月20日、全国市議会議長会が行われました。出席いたしました。任期満了に伴いまして、坊会長から山形市議会議長の丸子善弘さんが会長となりました。

5月22日、牧之原市戦没者戦災死者追悼式があり、出席をいたしました。参加議員の皆様、ご苦労さまでした。

5月23日、牧之原市国際交流協会総会があり、出席をいたしました。在留外国人が2,664名、全体で6.3%ということで、母国といますか、は36に及ぶということでございます。ちなみに、吉田町は2,499人、8.6%、これは日本一のような状況になっております。菊川市は8.5%ということで、牧之原市、菊川市、吉田町が非常に多いという状況になっております。

5月24日、サーフィン、スタブ・ハイ・ジャパン国際大会がありまして、2,000人以上が参加しております。私も見に行きましたけど、盛り上がっていた割には、司会とかMCとか英語でよく分からないので、あまり盛り上がりませんでしたけど。

5月25日、静浜基地航空祭がございまして、副議長と参加いたしました。直前に航空機事故がありまして、その後も事故が続いて3名の死亡事故があったということで、こういうときのスピーチはおめでとうはなしで、非常に気を遣うイベントでございました。直前の事故のため、中止にはできなかったようであります。

5月26日、浜岡原発安全対策協議会役員会に出席いたしました。続いて総会が行われ、役員改選、予算決算が報告され、可決されました。

5月27日、全国民間空港所在都市議会協議会が行われ、任期満了に伴いまして、伊丹市の戸田会長から、同じく伊丹市の加藤光博氏に会長が交代となりました。牧之原市は副会長の職に当たりますが、次年度は実行委員になっております。

5月28日、同協議会総会が開催され、歳入歳出報告、役員改選議案は全て可決されました。

5月30日、県議長会協議会総会が行われ、副議長と出席いたしました。

同日に、花のまちづくり牧之原大会交流会がありまして、副議長と出席をいたしました。

翌日5月31日、花のまちづくり式典に出席をいたしました。参加された議員の皆様、ご苦労さまでした。

同じ日の夜、大会交流会が行われました。参加の議員の皆様、ご苦労さまでした。

それから6月6日、まきのはら活性化センター社員総会があり、出席をいたしました。皆さん社員になったんですね、会員じゃなくて。

6月13日、牧之原市スポーツ協会総会がありまして、出席をいたしました。加盟18団体

ですが、バスケットボールと野球がないというのが、一番人気のものなのですが、なぜかなということで、やっぱりスポーツ少年団はあるんですが、中学校になると消えてしまうというか、他部門に行ってしまうようですね。部活の地域移行が始まるので、監督、コーチや体育顧問も足りないのが課題です。

6月17日、ホーグオートライナーズがRORO船を造船いたしました。これは、御前崎のRORO船、就航するそうですが、その命名式に出席いたしました。スズキ自動車の専用船のようなものだそうですが、船名は、「HOEGH SUNRISE」。同式典には、鈴木俊宏社長が見えておりました。

6月21日、牧之原市シルバー人材センター総会に出席をいたしました。会員が510名ということで、変わらず。契約金額は3億3,000万円、前年比99.2%ということで、人口減や経済不安定の中で立派な成績だと思います。

6月24日、吉田町牧之原市広域施設組合議会が行われまして、議案は、空調設備の更新、それから吉田町議会議員の病欠に伴い、派遣議員の変更ということでございます。

それから、同日午後、焼却施設に関する調査研究報告会、先ほど市長がちょっと言っておりましたが、環境保全センターで行われました。

以上、私からの報告です。皆さんからの報告をお願いいたします。

植田議員。

○10番（植田博巳君）

5月20日、ここに記載がないんですけれども、静岡県の都市監査委員会総会及び研修会が沼津市で行われました。7議案が上程され、全て可決しております。

5月26日に、例月現金出納検査を実施いたしました。一般会計、水道会計、国民保険特別会計のほか5会計、それから坂部財産区の会計の出納検査を実施して、全て問題ございませんでした。

それから、5月30日が東海地区の都市監査委員会総会及び研修会が磐田市でございました。5議案が上程されまして、全て可決しております。

以上です。

○議長（村田博英君）

そのほか。

大石議員。

○14番（大石和央君）

榛原総合病院例月現金出納検査が5月29日と6月23日に行われました。書類等、適正に処理されておりました。

以上です。

○議長（村田博英君）

そのほか。

原口議員。

○15番（原口康之君）

6月12日、東遠議員交流フォーラムの打合せを行いました。この後、その他の中で少し報告を行います。

○議長（村田博英君）

そのほか。

[「なし」と言う者あり]

3 議長・関係議員・委員会報告 (2) 議会運営委員会

○議長(村田博英君)

それでは次に、各委員会報告をお願いいたします。

議会運営委員長、加藤委員長。

○5番(加藤 彰君)

議会運営委員会です。まず5月27日でありますけれども、6月定例会の日程の確認についてということで、これは既に済んでおります。

三つ目の黒ぼつ、静岡県後期高齢者医療広域連合議会議員選挙の実施については、その他のところをお願いをいたします。

そして、イの令和7年度牧之原市議会全議員視察研修(友好都市長野県松川町議会親善訪問ほか)案について、こちらもその他のところをお願いをいたします。

次に、ウのその他は、永年勤続表彰につきましては、こちらは終わっております。

次に、6月17日、アの6月定例会についてとイの6月例会の日程の確認について、既に終わっていますので、割愛いたします。

次に、6月25日であります。アの6月定例会について、そしてイの会期及び審議予定表変更案についてということでありますけれども、資料のほうを少しご覧いただきたいと思っております。資料1であります。

議案第57号として「静岡市消防局牧之原消防署榛原出張所改修工事の請負契約について」ということでありますけれども、こちらにつきましては、6月13日に入札を執行いたしましたところでありましたが、入札で業者が札入れした金額が市の低入札価格調査制度5,000万円以上による調査基準価格を下回ったため保留となったということで、保留業者から調査書が提出され、担当課で履行可能か調査した結果、履行できると判断されたため、追加議案として提出されたものでございます。

次に、資料2をご覧いただきたいと思っております。

27日であります。議案第57号として、工事請負契約の提案説明・質疑・討論・採決ということで、確認をしたところでございます。本日、議員全員協議会終了後に常任委員会合同協議会で追加提出議案が配付されるということでありますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (3) 総務建設委員会

○議長(村田博英君)

続きまして、総務建設委員会、濱崎委員長。

○9番(濱崎一輝君)

それでは、総務建設委員会の報告をさせていただきます。5月19日の委員会では、市内不動産業者との市民会議の振り返りと、行政視察についての協議を行いました。行政視察につきましては、視察先が決定したことの報告と、事前質問事項の提出の依頼を行いました。

た。

そして、6月2日の委員会では視察研修についてということで、事前質問についての各委員からの説明と視察の行程などについての確認を行いました。

そして、6月20日の付託議案審査の後に、視察研修についての最終確認を行いました。以上でございます。

3 議長・関係議員・委員会報告 (4) 文教厚生委員会

○議長(村田博英君)

それでは、文教厚生委員会。

谷口委員長。

○2番(谷口恵世君)

文教厚生委員会の報告をいたします。

5月27日、6月2日、6月20日、文教厚生委員会を開会いたしました。内容につきましては、行政視察についての決定と、事前質問等の件を行いました。

それから、20日の常任委員会付託議案審査は2件を審査いたしまして、27日の本会議委員長報告にて報告をいたします。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (5) 議会広報特別委員会

○議長(村田博英君)

議会広報特別委員会。絹村副委員長。

○3番(絹村智昭君)

議会広報特別委員会の報告をさせていただきます。

6月12日、本会議終了後、かけはし第79号の編集スケジュールをについて、確認いたしました。

以上でございます。

3 議長・関係議員・委員会報告 (6) 議会改革特別委員会

○議長(村田博英君)

議会改革特別委員会、原口委員長。

○15番(原口康之君)

特別ないです。

5 その他 (1) 静岡県後期高齢者医療広域連合議会議員選挙の実施について

○議長(村田博英君)

4番の協議事項はございませんので、5番その他、静岡県後期高齢者医療広域連合議会議員選挙の実施について、事務局から説明をいたします。

次長。

○事務局次長(浅井大典君)

資料3をご覧ください。前回の議員全員協議会において、静岡県後期高齢者医療広域連合の議員選挙が3名の欠員が生じたことによりまして、届け者数によっては選挙になる可能性がございますということで報告させていただいたんですけれども、記載のとおり、23日付で広域連合事務局より議長宛てに3名の欠員に対して4名の届出があったということで、投票による選挙を実施していただくようということで依頼の通知がありました。

右ページに行ってください、それぞれ候補者名等記載がありますので、またご覧ください。

この選挙につきましては、市議会の慣例によりまして、定例会最終日の日程の第1で選挙を実施するというので、ご承知おきください。

以上です。

5 その他 (2) 令和7年度 牧之原市議会議員視察研修について

○議長(村田博英君)

(2) 令和7年度牧之原市議会議員視察研修について。

日時は令和7年7月7日、月曜日、13時からですが、事務局、説明をお願いします。

○事務局次長(浅井大典君)

もう説明はしておるんですけれども、いま一度、近いため説明をさせていただきます。

市議会議員の視察研修ということで、7月7日の月曜日、集合時間を加味しますと、1時からということで、榛原庁舎は1時出発、相良庁舎は1時半出発ということで、もう既にそれぞれ議員の皆様には、どちらの庁舎で乗るかというのは事務局のほうに報告をしていただいておりますので、それぞれ出発時間に間に合うようにお集まりください。

視察先につきましては、御前崎港のバイオマス発電所ということで、全議員の皆様が対象となっております。

上下作業着、また歩きやすい靴ということで、またタブレットは必要ありませんので、ご承知ください。

改めて周知ということでさせていただきました。以上です。

5 その他 (3) 令和7年度 静岡縣市町議会議員研修会

○議長(村田博英君)

次、(3) 令和7年度静岡縣市町議会議員研修会、11日の金曜日、13時30分から15時15分ということで、榛原庁舎玄関前に集合して、市のバスにて12時出発するというです。会場は静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」です。対象は全議員ということです。

事務局からお願いします。

○事務局総括主幹(原口 亨君)

今の補足ですけれども、当日協議会がありますので、相良庁舎に皆様集合でお願いします。

以上です。

○議長(村田博英君)

よろしいですね。

5 その他 (4) 令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修(友好都市長野県松川町議会親善訪問ほか)案について

○議長(村田博英君)

(4) 令和7年度牧之原市議会全議員視察研修(友好都市長野県松川町議会親善訪問ほか)、令和7年8月21日から22日と、一泊二日ということですが、これは補足ございますか。

次長。

○事務局次長(浅井大典君)

資料4をご覧ください。既に松川町の全議員での訪問ということで、ご報告はさせていただいておるんですけれども、現時点での案ということで、主だったものをまた変更になる可能性もございますけれども、報告をさせていただきます。

21日につきましては、松川町のほうの議会に着きましたら、昼食後に着きましたら、1時半からおおむね3時を目標に表敬訪問と研修ということで予定しております。また、その後の町内の視察ということにつきましては、まだ今調整中で仮ということでご承知おきください。その後は、両議員の皆様とで基本的に情報交換会ということで予定をしております。

翌日の金曜日につきましては、直売所や道の駅等を見ていただいた後、1か所、土岐地球年代学研究所というところで1時間半ほど現地視察ということで、予定をしております。

また、下の2の研修の案というところで見てくださいなんですけれども、1の開会から4の出席者紹介までは基本的に前回同様このような形で今考えておるんですけれども、5の懇談、議員同士での研修ということで、今、松川町の向こうの事務局とも協議をしているんですけれども、今これ10分10分30分とあるんですけれども、向こうのほうからは、何か一つ両議会で共通のテーマというか、課題で協議できるように、一つ絞ってやろうじゃないかというような話もありましたので、今お互い議会定例会中ということで、少し連絡が手薄になってしまっているんですけれども、これにつきましては両市町の事務局のほうでしっかり協議した上で、改めて全員協議会でまたご説明させていただきますので、現段階での行程案ということで、ご承知おきください。

説明は以上です。

○議長(村田博英君)

その他事項は全て終わりました。

ほかにごございますか。

次長。

○事務局次長(浅井大典君)

先ほどの市長報告の質疑の中で、石山議員から、市民意識調査の資料請求というか、資料をいただけるかということに対して、できますよという回答はあったんですけれども、議会として資料請求するということによろしいですか。

○議長(村田博英君)

よろしいですね。

[「異議なし」と言う者あり]

○議長（村田博英君）

お願いします。

それでは全員協議会を閉会といたします。ご苦労さまでした。

質問に対しての回答ね。

市民生活部長。

○市民生活部長（前田里芳君）

先ほどはすみません、失礼いたしました。大石議員のご質問について調べた結果について、報告をさせていただきたいと思っております。

まず、マイナ保険証の紐づけの関係でございますけれども、国保ですが、今、被保険者が最新の数字で9,022人のうちの7,078人ということで、率にすると78.4%ないし5%が登録されております。あと、後期高齢者につきましては、最新で7,864人のうち6,168人、やはりこちらも78.4%登録をされているというような状況が確認できました。

それからあと、資格確認書の全員への発送ということですがけれども、今、静岡県では、もともと保険証廃止のときの対応という中で、国のほうの通達、指導の下に、静岡県内の全ての市町が基本的にマイナ保険証、ある人は資格情報のお知らせというものを送る。登録がない人に、資格確認書を送るということで、県内市町が統一してそういった対応をしているということでございます。今のが国保です。

後期高齢者につきましては、マイナ保険証を登録、登録されていない関係なく、全員に資格確認書を送っていると。これは全国統一の業務ということで、行っているということでございますので、報告させていただきます。

○14番（大石和央君）

一つだけいい。確認というか、結局国保でマイナ保険証保持者、持っている人は送らないということなんだけれども、これは各自治体にお任せされているんですよね。ですので、私は要望として、全国保の方に確認書を発行していただきたいと。そのほうが混乱がないだろうということで、要望いたします。

○議長（村田博英君）

市民生活部長。

○市民生活部長（前田里芳君）

今のお話、自治体にという話ですけど、東京のほうで一部の自治体で全員に送っているというのがあるということがニュースになったようでございます。そうしたもので、国のほうが、その辺は自治体の裁量に任せるといような回答があったという話を先ほどちょっと確認しましたので、またその辺はご意見として、そうしたことで話を出せるところがあれば、していきたいというふうに思います。

○議長（村田博英君）

以上で全員協議会を終了いたします。

[午前 10時19分 閉会]